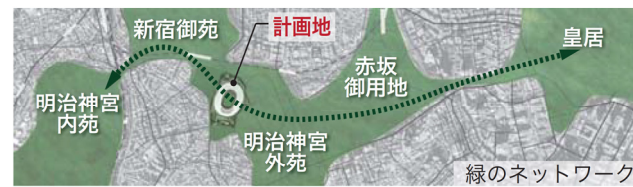


⑨環境計画 | 明治神宮外苑の歴史と伝統ある環境や景観等に調和するための具体的方策

雄大なスケールの緑に包まれ、周辺の自然と調和し、市民に開かれた新しい「杜のスタジアム」を創出します

神宮外苑は、国民の寄付と勤労により整備された庭園です。周囲は生活と自然が密接に結びついていました。東京の誇る歴史的な緑の集積である神宮内苑から皇居への緑地帯の中で、100年後を見据え、大地に根ざす「生命の大樹」として市民に開かれたスタジアムを創ります。



1 周辺の景観と調和し、人々が日常的に集いにぎわう新たな拠点をつくります

1 市民に開かれた新しいスポーツクラスターの拠点

- 周辺の公園空間からつながる「大地の杜」とスタジアム最上階(5階)の「空の杜」により、人と緑が重層的に連続する緑の歩行空間を創出します。
周辺の緑と調和するよう外周の連続した軒庇に緑を配し、施設全体が一体となった公園空間となります。
「大地の杜」とつながる1階コンコースや競技フィールド、「空の杜」となる5階を開放し、誰もが気軽に散策やスポーツを楽しむ健康増進の場を提供することで、地域に開かれたスポーツクラスターの拠点となる「杜のスタジアム」を実現します。



2 50m以下に最高高さを抑え、周辺からの圧迫感を軽減

- 8万人の観客席をコンパクトに配置し、フラットな屋根架構により建物高さを50m以下に抑え、周辺の景観に調和する計画とします。
隣接敷地からの景観に配慮し、最外周柱の最上部を内側に傾斜させて、周辺への圧迫感を軽減する計画としています。



3 周辺環境の保全に配慮したスタジアム

- [騒音] (参考添付資料 P08 参照)
各階のコンコースと観客席出入口の間に扉を設けると共に、2・3階は外周開口部を外部建具で遮蔽可能とし、近隣への騒音を軽減します。
1・2階のゲートは扉を閉めることができ、周辺への騒音を軽減することに寄与します。
競技フィールドから直接騒音が抜けるB2階車輦出入口には遮音扉を設けます。

- [ビル風(風害対策)]
風シミュレーションの結果をふまえて、敷地北側と敷地西側のペDESTリアンデッキに防風植栽を配置します。

- [光害]
各階の連続した軒庇により、周辺への反射光を防ぎます。
フラットな大屋根により、屋根面からの反射光を周辺地域に反射させない計画としています。

- [雨水流出抑制]
雨水流出抑制槽は、条例で必要な対策量以上を設け、集中豪雨時にも敷地内に一時貯留できる計画とします。

2 壮大な外苑の緑と一体となり、自然や水辺に親しめる人々の広場を創出します

1 豊かな杜と里の風景を奏でる「大地の杜」

- 計画地は外苑の「杜」と市街地の「里」が接する場所に位置しており、「大地の杜」を3つのゾーンに区分します。

(A) 東・北側ゾーン - 深緑の杜

外苑外周部の濃い緑に接する東・北側ゾーンは、高木、亜高木、低木からなる立体的な樹林構成とし、建物に対する緩衝帯となる周囲と連続する深い緑地とします。

神宮外苑の「持続的な森」を意識し、スタジアムなど計画地の潜在自然植生(スタジアムヤブコウジ群集)の構成種を中心に落葉高木を組み込みながら、常落混交の階層構造をつくります。また次世代の主木となる苗木もあらかじめ植え、森の維持を図ります。(参考添付資料 P05 参照)

(B) 南側ゾーン - 大樹の里庭

広いオープンスペースである南側ゾーンは、日本を代表する大樹を大地に植え、大きなスケールの緑で人を迎え入れる広場とします。里の景観として、計画地の代償植生(コナラ-クヌギ群集)の中から、古来より日本で親しまれてきた大樹(ケヤキ、ムクノキ、エノキなど)を地植えし、大きく育てます。メインアプローチの一つとして目線の通る奥行きのある空間をつくります。(参考添付資料 P05 参照)

(C) 西側ゾーン - 水辺の里庭

街に面する西側ゾーンは、落葉樹や水辺を配して彩り豊かな里庭とし、自然と親しむ憩いの空間とします。

人工地盤上のため大木の植栽は避け、モミジなどの落葉樹で四季を演出し、ソヨゴなどの常緑樹で周辺建物への視線を防ぎます。せせらぎ沿いはミソハギなどの水生植物で彩りを添えます。(参考添付資料 P05 参照)

- すべての移植木を敷地内で活用し、3つのゾーンの植生や樹林構成に合った樹種や大きさを選んで配置します。(参考添付資料 P05 参照)

2 環境と対話し、周辺の景色を望む「空の杜」

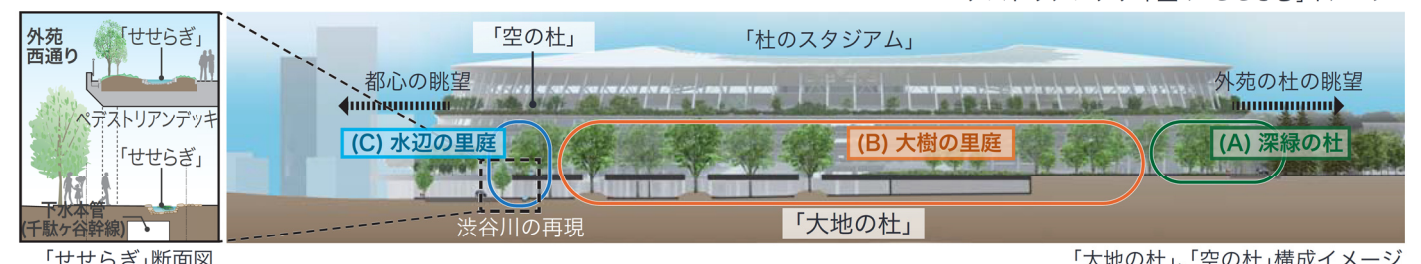
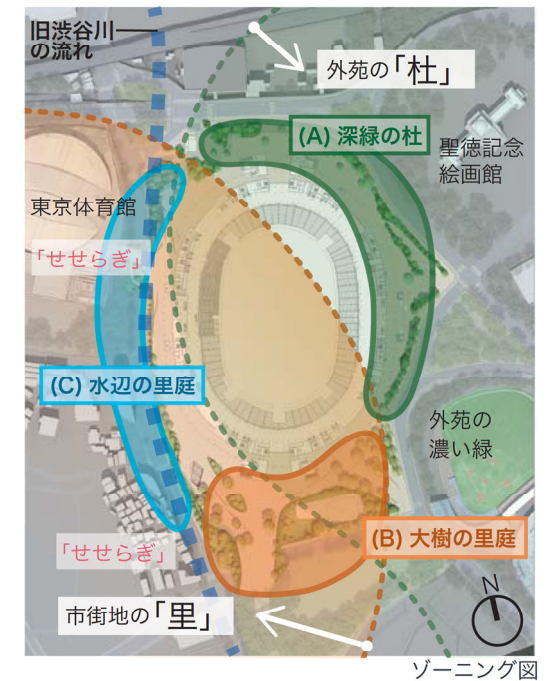
- 「大地の杜」と自由に行き来できる「空の杜」は気軽に散策でき、外苑の森や都心の眺望を楽しめる開かれた空間とします。
ススキや彩りある草花、花木を連続させ、計画地の原風景のおおらかさを想起させる空中の庭園をつくります。

3 人が憩い、生き物がすみ、豊かな水辺 - 渋谷川の再現

- かつて渋谷川があった谷筋に「せせらぎ」を整備し、生活の一部であった水辺を再現します。その「せせらぎ」は、雨水集水機能を再生し、一部は地中に浸透するなど、水循環の回復に寄与する水辺です。
1階ベDESTリアンデッキ上部の「せせらぎ」は、彩り豊かな水生植物を配するなど、周辺の自然と連携して多様な生物を育みます。
ベDESTリアンデッキ上部と下部の「せせらぎ」により渋谷川を再現することで、多面的な価値を創出します。

4 庇上プランターユニットの市民参加活動への利用

- 軒庇上部の植栽は、プランターユニットになっておりスタジアムの建設時に植栽の植わっていないいくつかのユニットを建築作業所内に設置することにより、作業所を来訪した様々な人が種をまいたり苗木を施すなど、市民参加型の活動により開かれた「杜のスタジアム」とします。



「大地の杜」、「空の杜」構成イメージ